

ラップランド応用科学大学

Lapland University of Applied Sciences

●学部・大学院生 5,618人（うちロバニエミ 2,907人） ●教職員 560人

ホームページ <http://www.lapinamk.fi/fi>

交流協定締結年月日：2009年6月1日 主管学部：工学部



国際交流の特色

ラップランド応用科学大学は、EUの高等教育機関の中で、最北に位置し、フィンランドのラップランド州にあり、北極圏上にあるロバニエミの町にある。町の中心近くに3つのキャンパスを持っている。ロバニエミ地域は、人口は約6万人で、ラップランドの政治・文化の中心地で、有数の観光地で、サンタクローズの出身地でもある。1996年、フィンランドにPolytechniques（工科系の総合高等教育機関）が設立されたことを機に創設された公立大学である。6つの学部を持ち、特に、ツーリズム、ソフトウェア・エンジニアリング、ハイテク技術、寒冷地活動等の分野に強みを持っている。また、国際交流が活発で、留学生の派遣・受入を非常に積極的に展開している。

2014年1月に合併によりロバニエミ応用科学大学からラップランド応用科学大学となった。

交流実績（平成26年度～28年度）

年度	H26	H27	H28
受入・派遣			
学生の受入	0	0	0
学生の派遣	1	1	3
研究者・職員の受入	0	0	0
研究者・職員の派遣	0	0	0



教員からの声

2010年に学生10人と教員2人という大所帯でフィンランドの現在ラップランド応用科学大学に改変されているロバニエミ応用科学大学（RAMK）を協定校訪問しました。RAMKは3つのキャンパスからなり、情報技術やツーリズム、環境工学、医療運動工学等に力を入れています。RAMK学長、学部長はじめとし関係の方々から歓迎して頂きました。RAMKへは欧米を主とし諸国からの留学生が多くきており、到着初日の留学生100人以上による盛大なパーティでは（言葉は片言でありながらも）皆がダンスで心を通わせていました。ロバニエミ市は北極圏に近く自然の豊かな場所で、静かな湖面に木々の緑と青空が反射した美しい景色が広がります。恵まれた自然とフィンランド人の持つデザイン性、そして最先端のテクノロジー技術とが上手に調和され、人々の豊かな生活を支えていることを実感しました。

工学部准教授 宮川 勇人

学生からの声

ラップランド応用化学大学に約4か月半の間インターシップを行いました。実習では、3Dシミュレーションシステムの開発プロジェクトに所属していました。海外技術者との見解の違いなどもありましたが、とてもよい経験ができたと思います。生活面では、やはり寒さが際立ちます。1月の寒い日になるとマイナス30度近くまで落ち込みます。しかし、その環境だからこそ見る事ができるオーロラはとても綺麗でした。また、フィンランドはサウナ発祥の地ということもあり、どんな家にもサウナがほとんど常設されています。大学寮の中でも共用のサウナが敷設されており、みんな利用することができます。他にも寒い土地ならではのアイススイミングなどのアクティビティも楽しみました。

工学研究科 博士前期課程 熊野 圭馬